

# 薬局製剤アンケート結果について

佐賀県薬剤師会検査センター運営協議会

- 川副 陽子、武田 裕二、中山 秀幸、宮崎 幸久、橋本 尚、三橋 博子、森 洋介、  
内川 豊治、高祖 順一、野村 忠之、古川 義朗、佛坂 浩

## 1 目的

薬局製造販売医薬品（以下、「薬局製剤」という。）は、疾病が軽度のうちに治癒させ、健康の維持を図るものである。平成 28 年 4 月より健康サポート薬局（かかりつけ薬剤師・薬局の基本的な機能に加え、国民による主体的な健康の保持増進を積極的に支援する機能を備えた薬局）がスタートし、製剤の中から症状にあった適切な医薬品を早期に提供することにより、症状の改善・治癒を助け、社会生活の維持・継続に資するため、薬剤師の職能を発揮することが求められている。

当会検査センターでは、日本薬剤師会計画的試験として会員薬局の薬局製剤の検査を行ったところ、ロット間での定量値のバラツキがあったことから、平成 13 年より希望があった薬局を対象に薬局製剤講習会を実施し、平成 22 年から学生の製造実習も併せて行っているが、現在では薬剤師の職能発揮のサポートとして行ってきた講習会が十分に機能していない状況にある。

そこで、製造実績や製造医薬品等についてアンケートを行い、薬局製剤製造業の許可を有する薬局の現況を把握することにより、問題点を明らかにして薬剤師の職能の発揮に資することを目的とした。

## 2 方法

薬局製造業を取得しているすべての薬局に対し、アンケート用紙を郵送し、FAX もしくはメールにて回答をもらった。

## 3 結果

84 薬局中 56 薬局からの回答を得られ回答率 67.5%であった。現在も薬局製剤を製造されている薬局は 66.1%、製造されている内服薬 17 製品、外用薬 16 製品、漢方薬はすべて製造している薬局を除き 30 製品だった。

また、現在製造していない薬局のうち、以前製造していた薬局は 57.9%、一度も製造経験がない薬局が 42.1%あった。その理由としてもっとも多かったのが「セールスポイントが分からない」「時間がない」であった。

## 4 考察

薬剤師の職能を活かして様々な工夫をしてオリジナリティーを持った製品を製造し顧客の心をつかむ方策の一つとして、薬局製剤がある。当然、薬機法、指針、公定法に則って行う必要はあるが、地域医療への貢献とともに、薬剤師技能を発揮して患者とのコミュニケーションが図れる等メリットは計り知れないものがあると考ええる。

アンケート結果を踏まえ、今後も製剤に自信を持てるよう、また、新たに製造業を取得しようとする薬剤師のためにも、製造工程の研修だけでなく、販売方法や原料や資材の購入・小分け等についても情報提供やサポートを行っていきたい。

## 5 キーワード

薬局製剤